

第5・6回
(2011.11.07, 11.14)

目録情報とその利用法

川崎良孝教授 (教育学研究科)

第5回：講義

場 所：吉田南総合館 共東41

出席者：31名

配布資料：川崎先生講義資料(A3 プリント 2枚) + 資料1, 2, 3(各1部) + パスファインダ, 『Let's Training!』(A4 各1枚)

前半：川崎先生による講義 ～図書書の並べ方・探し方(目録)の歴史～ (10:30～11:20)

Fixed Location 本のある場所は固定されており動かない	18世紀	①大きさ→②受入順で並べる(配架) = 同じ主題の本がバラバラに置かれる 探す手立ては冊子目録：大きさごとに著者名順 あるいは 著者名順 = 著者が分からないと探せない 本のある場所は“書架番号—大きさ・棚番号—並び順”で表現
	～1860s頃	⇒主題で並べる方が便利！ ①主題→②大きさ→③受入順に配架 / 目録は主題ごとに著者名順 あるいは 著者名順 本のある場所は、“主題—書架番号—大きさ・棚番号—並び順”で表現
	1858	ボストン市立図書館新館 開館：①主題→②大きさ→③受入順で配架 “ decimal system ”：1つのアルコーブ(alcove)の中に、10段の書架が10架 → それぞれに十進数の数字を付与して本の所在を表現 / 目録は基本的に著者名順 (参考) ウォルター・ホワイトヒル, ボストン市立図書館100年史栄光挫折再生, 川崎良孝訳 日本図書館協会, 2001, p.73-74, 350-353. 川崎良孝解説・訳 ボストン市立図書館はいかにして生まれたか, 京都大学図書館情報学研究会, 1999, p.87-88, 123-136.
問題点	ある大きさ・ある学問分野の本が急増すると、既存の書架では対応しきれない！	
Movable Location (Relative Location)	1876	メルヴィル・デューイ(Melvil Dewey, 1851-1931)のDC(Decimal Classification) = 十進分類法 ⇒ 普及・定着 書架ではなく資料を主題で分類し、配架 / 冊子目録から カード目録 へ ⇒ コンセプトの大きな変化!
本のある場所は移動可能	20世紀	SD (Subject Departmentalization) = 主題別部門制 / 主題別閲覧室制度 主題別に部門が分けられ、それぞれの部屋・書庫に、専門職員、蔵書、目録を配する → 「図書館全体としてどんな本があるか？」を示す全館目録 = 総合目録 (Union Catalog) が登場
主題ごとにまとめて配架	1960s頃～	分類・目録作業の集中化 (例)名古屋市図書館(中央館が分館の目録も作成)、OCLC(世界で集中化の流れが拡大)

* 京都大学の目録 *

～1990 各学部図書館で目録作成・附属図書館に総合目録(附属図書館に目録室があった)

1990～ 各図書館でオンライン目録を作成、各図書館内からコンピューターで検索できるシステムに

1998～ OPACがWebフロント化、図書館外からも検索可能に！

→現在では、例えば大学図書館の総合目録といった、全体的なOPACがあり、世界中の図書が検索できる！

図書は国際的広がりを持っており、ISBN(国際標準図書番号)によって、同じタイトルや同じ著者でも同定可能。

後半：図書館員の講義 (11:20～11:45 担当：佐々木)

次週の演習に向けて、まず参考文献の役割、記述例や論文の構成を解説し、実際に現物を回覧して雑誌論文の参考文献箇所を見てもらった。また、書誌事項を分解・解説することで、その構造に対する理解を深めてもらった。

今年は、目録検索の基礎的な解説ではなく、KULINE検索が図書/雑誌のタイトルからの検索であることを念頭に、書誌事項の理解に合わせて、オンライン目録の記述・見方の理解に徹した解説となった(図書・雑誌別)。具体的には、所蔵館・配置場所・請求記号・状態(貸出中) / 電子ジャーナル・電子ブックの有無 / シリーズ名 / CiNii・KURENAIで本文まで閲覧できる例 / 書誌事項から変遷誌の特定など。講義には資料1とPowerPointを使用。

『Let's Training!』解答 (11:45～11:50)

次週の演習に向け、書誌事項の記述に慣れてもらうために10種類のパターンを用意し、その中で、KULINE検索で必要な図書/雑誌のタイトルをチェックしてもらう。

『Let's Training!』解答解説 (11:50～12:00 担当：河野)

10種類全パターンにおいて、書誌情報の分解、各記述の説明を行った。解答用紙は要提出(ただし評価の対象外)。

(担当：梶谷春佳)

第6回：演習

場 所：学術情報メディアセンター南館 203, 204

出席者：41名

配布資料：演習問題(A4プリント1枚)

《前半》

○図書館職員による例題解説 (10:30-11:00 担当：梶谷)

資料2,3、パスファインダ、PowerPoint を使って演習問題の解答方法や検索のポイントを説明し、パスファインダの裏に設けた簡単な予習問題の解説を通して、前方一致・完全一致の検索方法の復習も行った。また、公開されたばかりのCiNiBooks や、演習で登場するNDL-OPAC等、6つの他機関OPACの紹介も行った。例題解説は音声と画面の同時中継で行い、203号室で解説者が解説をし、204号室にその音声・映像が流れるようにした。

演習の際にアクセスの集中によるKULINEのサーバーダウンを避けるため、203号室はsys2サーバ、204号室はsysサーバのURLを指示した。また教室をそれぞれ左右2つに分け、それぞれ問1、問8から解答を始めるように指示した。

《後半》

○演習問題の解答 (11:00-11:50)

問1から問7では参考文献形式で書かれた書誌情報をもとに、図書や雑誌の所蔵/配置場所、請求記号、電子ブック・電子ジャーナルの有無を、KULINEを使って検索してもらった。完全一致検索や前方一致検索を行ったり、学内で所蔵していないものについては「NII 同一書誌検索」「他大学を検索」からのリンクによって、KULINE 経由でのNACSIS-Webcat 検索を行う等、様々な場面を想定した問題構成となっている。問8以降はKULINE以外の検索システムを使いこなせるようにするため、NDL-OPAC や京都府図書館総合目録ネットワーク、Webcat Plus といった他機関の検索システムを用いる問題を設定した。

解答時間は45分間に設定していたが、学生の解答状況を踏まえ、5分間延長した。

1-7：KULINE 検索、KULINE 経由でのNACSIS-Webcat 検索

8：国立国会図書館OPAC(博士論文)検索

9：Webcat-Plus で連想検索し、その結果得た書誌の所蔵を京都府図書館総合目録ネットワークで検索

10：World-Cat で検索し、その結果得た書誌について、Amazon.com での最安値を検索

○演習問題の解説 (11:50-12:05 担当：河野)

問1から問7のKULINE 問題について、参考文献形式で書かれた書誌情報を要素に分解し、検索キーワードとなる書名・雑誌名を見分け、検索する過程を、PowerPoint を用いて解説した。また完全一致検索や前方一致検索、版による書誌の識別、著者名による絞り込み検索等、解答のポイントとなる点についても解説を行った。

(担当：佐々木健二)